

記入日

2024年10月25日

助成団体名 山都の森と水を守る会

2023年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	①鹿児島県大崎町の一般廃棄物処理システムを学ぶツアー	②藤原寿和講演会「知ってるようで知らない半導体のこと」(熊本の環境を考える会と共催)	③劇団天然木ミュージカル「令和いきもの会議」制作・共催	④東竹原産廃処分場パンフレット、御船町産廃処理施設パンフレット改訂
取り組み実施期間または日時	2024年5月22日	2024年6月9日	2024年8月18日、25日	2024年8月

【取り組み目的】

①鹿児島県大崎町はリサイクル率日本一を達成しており、大崎町SDGs推進協議会を中心に企業・研究者・自治体などと連携してあらゆる資源が循環する次世代型の町「サーキュラーヴィレッジ・大崎町」の実現を計っています。大崎町の取り組みに学ぶべく視察ツアーを実施しました。

②2022年度のPFAS調査により熊本市内で国の暫定指針値（PFOAとPFOS合計で50ng/L）を超える井戸水の汚染が発見され、23年度には追加の調査がされましたが、原因は不明のままです。熊本市の水道はすべて地下水によって賄われていることから、地下水の汚染を憂慮する県民・市民が集まり、「熊本の環境を考える会」を立ち上げ、独自に水質の調査等を始めました。山都の森と水を守る会有志もこれに参加し、PFAS問題について学習を重ねてきました。

そうした中、台湾の半導体大手TSMCが熊本県菊陽町に工場を建設、24年末から本格操業を開始します。半導体企業ではPFASを多用すること、また多くの半導体関連企業が熊本に集積しつつありますが、半導体製造企業からの産業廃棄物が御船町の間処理施設、東竹原の最終処分場に持ち込まれる可能性を否定できないことから、半導体産業についての情報収集及び「熊本の環境を考える会」と共催での講演会（6月9日）にも取り組みました。

③山都町の劇団天然木は、山都町周辺の市町村及び熊本市等の小中学生・高校生を集めて、子どもミュージカルの創作や、家族劇団として独自の作品を上演、楽しい中にも環境問題や社会問題等への視点を交える、重要な活動を行ってきました。こうした取り組みを踏まえ、人間の活動による環境破壊の問題を分かりやすく伝える作品を上演することで、大人も子どもも一緒に楽しみながら環境について考える機会ができると考え、ミュージカルの制作を依頼しました。

④東竹原産廃最終処分場問題、御船町産廃中間処理施設問題を広く情報拡散するために昨年度からパンフレットを作成していますが、より一層読みやすくして理解を広げるために、イラスト作成や文言の改訂版を作成しました。

【取り組み内容と成果】

①会メンバー7名及び会員外の参加者1名、計8名が視察ツアーに参加し、乗用車2台に分乗して出かけました。大崎町SDGs推進協議会事務局の方2名が案内してくださって、曾於南部清掃センターの埋立処分場、大崎有機工場、そおりサイクルセンターを見学、最後に閉校になった高校の校舎を利用して作られたジャパンアスリートセンターでの座学を受講しました。

大崎町は1990年に一般廃棄物最終処分場の埋め立てを開始しましたが、処分場の建設に周辺住民の反対が大きかったこと、焼却炉は建設費・維持費が大きいことなどの理由から、埋立処分場の延命のため徹底的な分別ルールを策定、450回もの住民説明会を開いたとのこと。

当初15年といわれた処分場の寿命ですが、現在半分ほどが埋まっただけで、あと40年ほど埋立可能とみられています。

一般ゴミの60%を占める有機ゴミを堆肥化したことで埋立ゴミを大きく減らすことができたとのことですが、これは山都町にとって大変参考にしたい取り組みだと思います。

②6月9日（日）18:30～熊本パレア9階第1会議室にて、講演会「藤原寿和さんと学ぼう 知っているようで知らない 半導体のこと」を開催しました。参加者85名。TSMCについては新聞、テレビなどで経済効果などをメインとした前向きな情報が多く流されてきましたが、県民の多くは地下水をはじめとする環境汚染、地下水の枯渇のほか、交通渋滞、農地転用、事故の可能性、労働者の健康など多くの不安を感じています。そういった疑問に答える情報がほとんどない中での開催であったため、参加者からはマイナス面の情報を知ることができてよかったという感想が多く寄せられました。情報開示の方法など、行政への働きかけの必要性も考えていく必要があると思います。

③天然木ミュージカル「令和いきもの会議」は 8月18日（日）山都町旧大野小学校体育館、21日（水）熊本市男女共同参画センター多目的ホールはあもにいにて公演されました。

ミュージカルには天然木とともに、県内外のティーンエイジャー10名が参加し、準備段階では水俣での合宿を行うなど、出演者自身が環境問題への関心を深めるという重要な活動となりました。水俣病をはじめとする諸々の公害・環境問題を取り上げ、影響を受ける多くの生き物たちが絶滅の危機にあること、それらが人間の活動の結果であり、人間の生活・健康にも大きな影響を与えていることを伝えました。さらに、人間が生活の利便性を追及した挙句の副産物である産業廃棄物処理・処分場の問題まで取り上げ、ユーモアと感動に溢れたミュージカルとなりました。

10月14日（月祝）旧大野小学校体育館／10月19日（土）熊本市男女共同参画センターはあもにい多目的ホールでの再演も含め、600名近くの観客に見ただけのこと、出演者を含め若い世代に関心を持ってもらえたことが、大きな収穫だと思います。

④ミュージカル「令和いきもの会議」の公演に合わせてパンフレットを改訂し、公演で配布しました。その他、会メンバーがイベント等での配布をしながら、産廃問題を知っていただくための手段にしていきます。

【備考欄】

*御船町「上益城地域におけるエネルギー回収施設等設置事業 環境影響評価方法書手続き」に対する学習会を企画し（2023年8月）、9月にかけて一般意見の書き方を学び、意見書を書く会等を企画しました。

*東竹原産廃処分場に関して、宮崎県9月議会での質疑から、事業者である星山商店では、現在設計コンサルタント等の委託業者や専門家等との打ち合わせや他の施設の視察を行っており、当初令和5年度から6年度としていた設置計画の見直し等には、さらに2年以上かかる見通しであり、完了の目処は立っていないとことが明らかになりました。